デーリー東北新聞社提供

デーリー東北
2026年（令和8年）11月3日（火曜日）（9）

学生たちの秘密基地

地域の学生たちが所属する愛好会や研究会を紹介するコーナーです。普段の活動の様子や仲間との交流など、それぞれの団体ならではの魅力を通して、学生たちの充実した日常をお届けします。

八戸工業大「ゲーム研究部」



紹介者　工学部工学科システム情報工学コース2年　佐々木　皓紀さん（19）

ゲーム研究部は、ボードゲームや会話とサイコロで物語を進めるゲーム「TRPG」といったアナログゲームの楽しさ、楽しみ方について探究しています。部員は1～4年生の計9名で、現在は私が部長を務めています。普段は講義終わりの午後4時ぐらいから7時ごろまで、学内の部室にて活動しています。

私自身は、元々動画を見て興味を持っていたTRPGと、兄が入部していたことがきっかけでこの部活に入りました。

新しいボードゲームとの出合いや、好きなゲームの魅力を知ってもらえる瞬間は本当に楽しいです。

一方で、難解なルールを分かりやすく人に伝える難しさや、多くのゲームに触れてもらうための工夫など、運営面での苦労もあります。

私の一押しは「Dominion（ドミニオン）」というボードゲームです。毎回異なる10種類のカードから自分の好きな組み合わせを選び勝利を目指すのですが、カードの種類が非常に豊富で、ランダム性が高く、遊ぶたびに新鮮なワクワク感を味わえます。

アナログゲームに興味がある方をいつでも大歓迎しています。よく知らない方でも文化祭などのイベントで体験できますので、ぜひ皆さんと遊びたいです。お待ちしています。

八戸工業大「自然観察会」



紹介者　工学部工学科生命環境科学コース2年（左から）
齋藤　由乃さん（20）
須藤　千晴さん（20）
中村　華鈴さん（20）

私たち自然観察会は、動植物や菌類が大好きなメンバーが集まって昨年立ち上げた、新しい愛好会です。普段は学校内や青森県内の自然観察、種差海岸のごみ拾いなどを行っています。今回は私たちの二つの活動を紹介します。

一つ目は、大学内での観察です。学内は植物だけでなく、菌類もたくさん見つかります。そのため4月にはアミガサタケを採取して乾燥標本を作りました。また、夏から秋にかけては、大学内に発生したキノコを集めて、生物分類学上の所属と名称を明らかにする作業「同定」にチャレンジしました。毎年同じ種類が見られるわけではないため、宝探しのようでわくわくします。

二つ目は、海洋汚染をテーマにした種差海岸のごみ拾いです。実際に拾ってみるとプラスチックのごみが特に多く、分析してみることで他人事だと思っていた環境問題が身近なことだと実感できました。そのため、ごみ拾いは今も継続しています。

これまでは、視察が中心でしたが、これからはメンバーそれぞれが好きな分野に分かれて植物のマップ作りや昆虫の標本作りなどに取り組む予定です。

自分たちで研究テーマを考えて実行するのは難しいですが、活動を通して「好き」をさらに極め、それぞれが夢中になれる楽しい愛好会にしていきたいと思っています。

"新鮮"アナログゲーム



DORASURE（ドラスレ）を楽しむ部員たち

わくわく"宝探し"



東北大植物園八甲田山分園を訪れたメンバー



学内で発見したアミガサタケ

※この記事・写真等は、デーリー東北新聞社の承諾を得て転載しています。